



講座のアピールポイント

産科婦人科は婦人科腫瘍、周産期、生殖内分泌、女性医学と幅広い領域を扱いますが、当教室はそれぞれの領域の専門医が在籍し専門的な医療を提供しています。

- 1) 周産期分野は、総合周産期母子医療センター産科部門として、ハイリスク妊娠の母体・胎児の診療を担当しています。栃木県内の3次施設として他の医療機関からの紹介・母体搬送を積極的に受け入れています。出生前遺伝学的検査や遺伝カウンセリングなど遺伝診療もおこないます。
- 2) 婦人科腫瘍分野は、がん地域拠点病院として、放射線科・外科・泌尿器科・はじめ複数診療科と連携しながら診療にあたっています。特に、他院で対応困難な、内科的合併症を有する患者さんを積極的に受け入れています。また、低侵襲なロボット手術や遺伝性乳癌卵巣癌症例の予防的卵巣卵管切除など積極的に取り組んでいます。
- 3) 生殖分野では従来の不妊治療のほか、若年癌患者さんの妊孕性温存などにも取り組んでいます。
- 4) 女性医学では、思春期から更年期・老年期まで、ホルモン治療を中心とした若い方の卵巣機能不全から、更年期障害、骨粗鬆症や動脈硬化への対応まで、quality of lifeの向上を目標に治療をしています

講座研究紹介

癌研究では、癌の遺伝子発現に基づいた治療の個別化、新たな予後因子や発癌リスクを蛋白・遺伝子レベルで調べ、新たな治療候補薬の効果を研究しています。周産期領域では切迫早産、妊娠高血圧腎症、胎児機能不全、胎児発育不全、胎児疾患の治療成績の改善をめざした研究をおこなっています。日常臨床で生じた疑問の解決をめざし、基礎的研究のほか、臨床研究も積極的に行い新しい治療方法の確立目指しています。

当教室で行っている研究の一部を紹介します。

- ・ 終末期卵巣癌患者に対する化学療法の適否を判断する客観的指標の検索
- ・ 卵巣明細胞癌に発現する血小板凝集因子ポドプラニン (D2-40) の生物学的意義
- ・ 肥満・インスリン抵抗性を標的にしたメトホルミンの子宮体癌予防にむけた臨床的研究
- ・ 子宮体癌代謝プロファイル異常の解明
- ・ 女性ホルモンを含めた液性因子と血管機能
- ・ 女性医学における各種治療と QOL の推移
- ・ 2DTT による胎児心 global longitudinal strain , strain rate の計測
- ・ 位相差トラッキング法を用いた胎児循環動態解析 [文科省科学研究]
- ・ 胎児鏡を用いた胎児治療法の開発と臨床応用